



Rokko Catholic Church Bulletin

カトリック六甲教会 教会報

2016

1

No.529



「いと高きところには栄光、神にあれ。」

地には平和、御心に適う人にあれ。」(ルカ 2.14)

高山 親 助任司祭

イエス・キリストの降誕を記念するのは、2000年あまりのことになりましたが、しかし、この誕生がそもそも誰のためなのか、あるいは、この出来事をおしてこの世に何をもたらしていただいたかについて、それをよく知る人が案外に少ないのかもしれない。

10年ほど前の話で、釜ヶ崎で野宿者や労働者のためにクリスマス会が開かれ、聖劇、キャンドルサービス、パーティー、プレゼント交換などが行われました。ある労働者は「クリスマスちゃんたちもこのようなイベントをするんや」と、おそらく、彼らにとって、クリスマスとは、世の行楽のひとつ、人々の楽しみのひと時に過ぎない。宗教行事や信仰表現の行為のこととは全く認識していないようです。

では、私たちの方はどうでしょうか。

今年のクリスマスにイエス・キリストの降誕に何をもってプレゼントし、自分の心にイエスのために、どのように場の準備をしていくのでしょうか。

釜ヶ崎でこのような祈りがあって、皆様に紹介したいと思います。

「天にみなぎる栄光は。地が低いところ、
貧しさと闘う人々からかがやき出る。
痛みを知る仲間たちこそ、世に平和をもたらす者。」

父である神さま、

わたしたちはあなたをたたえ、あなたに感謝します。
低みから立つ者とともにはたらかれる方(キリスト)、
あなたこそ「世の罪」、抑圧と差別をとりのぞく神。
あなたは、わたしたちの苦しみ、さびしさ、不安、
くやしさを、身をもって知っておられる方。
わたしたちに勇気とちからを与えてください。
仲間たちを立ちあがらせてくださるあなたこそ
聖なる方、ちからある方、ほんとうの神。



あなたはすべてをご自身と一体のものにして、聖霊とともに、
父のもとに向かっておられます。 アーメン」

(労働者のミサより)

七五三祝福式（11月15日）



昨年、息子が五歳のお祝いをしていただいたのに続き、今年は妹が三歳のお祝いでお世話になりました。

娘と同じ三歳のお友達も沢山いて、みな元気に成長して欲しいと願うと同時に、これからも教会で顔を合わす機会があって、仲良く遊ぶ姿を見られたらと期待してしまいました。

今年は祝福を受ける子供たちが大勢いて、和やかで賑やかな様子に元気をもらえました。温かい言葉も沢山いただきました。素敵な時間をありがとうございました。（本間）

上の2年生の女の子が、早生まれでまだ7歳だったので、5歳の下の子と一緒に、七五三のミサに参加しました。

まわりの7歳の女の子達がみんな、1年生だったので、とても恥ずかしがってしまいました。でも、みなさんに祝福されて、とてもいい気分になった様でした。

たくさんの子供達が、祝福を受けていて、とても可愛らしかったです。（タン）

～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～

宣教部 秋の黙想会（11月21日）

3人の預言者エリヤ、イザヤ、エレミヤの言葉や生涯を通して、祈りについての糧をいただきました。神の声を聴き、出会えるのは静けさの中、心からの礼拝、神への従順の中にある。また3人の中でエレミヤの生涯はキリストの生涯に似ている事や、旧約聖書の中でエレミヤ書31章31節にだけ希望の言葉があるとの赤松神父様のお話が心に響き、心の準備をする待降節を前に実りの多い黙想をすることができました。（S. F.）



去る11月21日（土）、赤松神父のご指導により、秋の黙想会が行われました。講話のテーマは「3人の預言者」で、旧約聖書における3人の預言者についてのお話です。

この「3人の預言者」というテーマを伺ったとき、それが誰かということは明らかにはされていませんでしたので、「それが誰か」と興味を持たれた方々の間では話題にされていました。当日の神父様のお話は、3人の預言者について、その歴史的な時代背景からご説明頂き、その後、聖書を読むという流れでした。「3人が誰か」という議論に加わることはできなかった不勉強な私にとっても、その3人の預言者が生き生きとしている様が初めて味わえたように感じました。旧約聖書により一層親しむきっかけにしたいと思います。赤松神父さま、どうもありがとうございました。

（なお、3人の預言者とは「エリヤ」「イザヤ」「エレミヤ」です。）

（宣教部 中村）

～～～宣教部からのお知らせ～～～
宣教部では、春と秋に「黙想会」を開催しています。
11時から3時ごろまでと短い時間としています。
皆さまどうぞご参加ください。



クリスマスチャリティコンサート（１２月５日）

おかげさまで、2015 年 12 月 5 日に神戸中央教会で行われたクリスマスチャリティコンサートには、約 180 名ご参加くださり、募金も多く集まりました。

また福島県の仮設住宅支援募金も集まりました。コンサートの募金は、今後の活動資金として活動センターの炊き出しと須磨夜回り会に、それぞれお渡ししました。

コンサートに来て支援してくださった皆様に厚くお礼申し上げます。プログラムの最後は、自称「むかし少年合唱団」の、かつて路上生活をされていたおじさんたちが、チャップリン姿で、感謝の歌声を会場に響かせていました。

また、長身のロマンスグレーのお洒落なおじさんは、ステッキを片手に優雅にダンスを披露してくださいました。おじさんたちから癒しと勇気をいただいた心あたたまるコンサートでした。今回見られなかったかたは、次回のクリスマスにぜひどうぞ！

（社会活動部 井川）



～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～

グランダ御影山手訪問（１２月６日）

今年も混声合唱団有志でグランダ御影山手を訪問致しました。スタッフの方よりお礼状を頂戴しましたのでご紹介いたします。



待ちに待ったクリスマス、今年もまたお忙しい中、グランダ御影山手へ来訪下さり、誠にありがとうございました。

ご入居の方々をはじめ、スタッフ一同、毎年この日を心待ちにしておりましたので、大変嬉しく思っております。いつもクリスマスシーズンにピッタリの演奏や、聖歌隊の皆様の心温まる歌声に、心癒され元気を頂いております。特に「きよしこの夜」を全員で合唱した時には、みんなの心がひとつになり、あふれるような感動を覚えました。

皆様がお帰りになられた後も、「とても素晴らしかった」「本当にクリスマスが来たんだね」「来年も元気でまた聴きたいね」等、たくさんのお声を頂戴しました。

きっとご入居の方々の大切な思い出の一ページになったことでしょう。

本当にありがとうございました。これからますます寒さ厳しくなって参ります。どうぞお風邪など召しませぬ様に、皆様方のご健康をお祈りしております。

グランダ御影山手 スタッフ一同

～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～．～



「いつくしみの特別聖年」開年ミサ（１２月１３日）

12 月 8 日、ローマで行われたサンピエトロ大聖堂の「聖なる扉」開門に始まる特別聖年の開年に伴い、待降節第三主日の 12 月 13 日、大阪カテドラル聖マリア大聖堂でも前田大司教司式のもと、「聖なる扉」が開門され、「いつくしみの特別聖年」開年ミサが行われました。各地の司教座聖堂などに設けられた「聖なる扉」を通り、所定の祈りを唱え、前後 10 日以内に「ゆるし」と「聖体」の秘跡を受ければ免償が得られるという規定に基づき、大阪カテドラルにも「聖なる扉」が設けられたのです。六甲教会の神父様方も大司教様と共にミサを司式されました。

当日は会場一杯に信徒が集まり、ミサの途中で全員が一旦、聖堂の外に出て、「門よ とびらを

開け」を歌いつつ、「聖なる扉」をくぐり再入堂しました。晴天に恵まれた爽やかな一日となりました。

共同祈願でもシリア難民のための祈りが捧げられましたが、世界のあちこちで内戦、難民、テロ、格差などの問題が起きている今、教皇様が特別聖年を定められたことには特別な意義があると思われます。「御父のいつくしみ」の受け手である私たち自身がその何千万分の一かのささやかな運び手にもなれるだろうか、と今後の信仰のあり方についても自省する良い機会をいただけたことを感謝しています。

(I. E.)



《 各 部 だ よ り 》 各専門部会の活動をお知らせいたします



三日月会

1月18日(月) 14:00 ミサと懇親会



宣教部

1月24日(日) 12:30 部会



教会学校

1月9日(土) 始業式・もちつき



社会活動部

2月5日(金) 10時ミサ後 連絡会



典礼部

1月16日(土) 10:00 部会



広報部

1月31日(日) 教会報2月号発行

《 お 知 ら せ 》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです

★社会活動部より★

1月9日(土) 10時

炊き出し(イグナチオホールお台所)

小野浜グラウンドにて、おじさん達のお話し相手や、配食だけでもOKです。

1月17日(日) 10時ミサ後

ふれあい広場(イグナチオホール) ボランティアグループ出店

1月22日(金) 9時30分

ともしび会ケーキ作り(イグナチオホールお台所) 施設の子どもたちに

越年越冬の炊き出し

日時: 12月28日(月)~1月5日(火)

10:00~15:30

場所: 東遊園地 (神戸市役所南側)

主催: 越年越冬実行委員会



神戸地区カトリック教会の当番日: 1/1(金)・5(火)

お手伝いできる方は東遊園地にお越しください。これ以外の日でも炊き出し期間中にお手伝いできる方はよろしくお願い致します。

・・・・・ボランティアグループの紹介 その9・・・・

アンチラ・ドミニ^{はしため}（神の端女）

私たち「アンチラ・ドミニ」は手作りのフルーツケーキを販売し、その収益で主に「マリアンホーム」と「アジア学院」その他時々に応じて助けを必要とされている所に送金し、支援をしています。

「マリアンホーム」とは一口で言うと「かけこみ寺」です。丹後半島の山中の廃村を譲り受け、虐待されたり心に傷を受け、疲れきって自分自身を見失ったりした人々のために、ひと時の安らぎの場として生まれました。

村長にはリチャード神父が在住され、多くのボランティアのスタッフが、ここを訪れている人と共に大自然の中で畠を耕し、自給自足に近い生活をしておられますが、運営にかなりの経費が掛りますので、私たちも微力ながらフルーツケーキの販売で少しでもお役に立てればと思い、楽しみながら焼いております。

「アジア学院」は栃木県にあり、世界50ヶ国以上の過酷な状況下で生きる農村地域から、人々の暮らしを改善するためのリーダーを招いて育てる学校です。ここで学んだ農業、畜産、養殖などの技術、知識をそれぞれの地域に持ち帰り、自力で変革を実現することができるように支援しています。

私たちのフルーツケーキは、ドライフルーツや紅玉りんごのブランデー漬けなど全て手作りなので、美味しくリッチな味わいで、大変評判が良く、教会バザー、六甲学院バザーなどで一度買って下さった方々のリピーターが多くて、焼かないうちから予約注文が入るといって人気ぶりです。ある程度の注文が集まった時点で焼いています。

どうぞ皆様も注文という形ででも私たちの活動を支えてくださるよう、よろしくお願い致します。（鈴木）

新年会のご案内



日 時： 1月10日（日）10時ミサ後
場 所： イグナチオホール



教 会 で 成 人 式 を ！

1月10日（日）10時ミサ中、新成人祝福式が行われます。
成人を迎えられる方にお声をおかけください。信者・未信者は問いません。

洲本教会聖堂建設支援チャリティコンサート

開催日： 2016年1月11日（月・成人の日）

開 演： 14時～

場 所： カトリック垂水教会 信徒会館



神戸地区宣教司牧評議会主催のこのチャリティコンサートは、洲本教会の新聖堂建設資金を支援する目的で行われます。プログラムは、司祭コーラスとバンド演奏で、松浦謙神父様、松永敦神父様、大久保武神父様と垂水教会バンドの方々が出演されます。

信徒の皆様のご支援よろしくお願いいたします。

小教区評議会議長 堤



みんなの広場

混声合唱に癒されて

「童謡や昔懐かしい歌を唄って楽しいのヨ」とのお誘いを受けて、混声合唱に入れて頂いて何年経ったでしょう。明るい十河先生の絶妙なご指導でとても楽しいひとときを過ごして居ります。音程のしっかりなさった正確に唄われる男声が入るとこんなに歌に重厚さが増すものかと男声の素晴らしさを実感する時間であります。



私事で恐縮ですが、一昨年 11 月中頃、家族が緊急入院し、いつ神父様にお出まし頂こうかとハラハラする毎日でした。ちょうど 12 月は混声合唱の出番が多く、12 月最初の土曜日は神戸中央教会のチャリティコンサート、その後、労災病院、グランデ、海星病院とチャリティ活動が続きました。参加を悩んでいたところ、病院で小康を得ていた病人に後押しされ、唄わせて頂きました。海星病院では、オマリー神父様のアッタカーイ礼拝、子供達の可愛い天使の群れの後に続いてキャロルを唄いながら病室を廻りました。

唄い終わると、とても気分が晴れて、ニコニコしながら病人の元に帰っていたようです。唄って来るたびに「生き生きしてるよ」との病人のコメントもあって、練習も少ししか参加せずに、それでも唄わせて頂いて本当に感謝でいっぱい！救われました。

重篤なご病人をかかえながらニコニコご指導下さった十河先生、伴奏をして下さる熊沢さん、楽譜や事務的な事をお世話下さる藤井さん、練習後のお茶の用意をして下さる平野さん達、心優しく愉快的混声合唱のお仲間の皆様、この場をおかりして、心から御礼申し上げます。有難うございました。（ジャンヌ・ダーク）

光と闇 5 ―主の信頼―

主はそのお歩きになった道で「神の愛（救い）に漏れる者はいない」、「神の国とは何か」を繰り返してお示しくださっているように思います。

「そういうことはみな守ってきました」（マタイ 19：20）

イエス様はこの青年を十二使徒にお選びになりませんでした。青年が財産を捨てられなかったからではないでしょう。イエス様が本当に召されたら、主の前に私たちは、網を、父の葬りを、ペトロのように家族を、パウロのように信念を置いて、従うしかありませんから。（共に主に従った妻や姑はペトロが逃げたときもあるいはマリア様と共に十字架の下に留まっていたのかもしれませんが。）

主は、主を三度拒んだペトロを、テロリストのように武力に頼っていたかもしれない熱心党のシモンを、疑い深かったトマスを身近な使徒に召されました。私たちがそれらの弱さを持っているがゆえに。

全能の父なる神のお力を凌ぐものはありえない――。しかし、主の現存を知っても（ご復活後の主に出逢っても）時に「怖れてしまう」のが私たち神ならぬ身の、被造物の限界、不完全さでしょう。「ヤコブのもとからある人々が来るまでは、異邦人と一緒に食事をしていたのに、彼らがやって来ると、割礼を受けている者たちを恐れてしり込みし、身を引こうとしだした」（ガラテヤの信徒への手紙 2：12）ペトロを、迫害者であったのを主が一瞬でご自分のものとなさったパウロが助けます。ペトロにパウロを配することで、ペトロの信仰を護られた…。なんという主の計らいでしょう！

「もはや、わたしはあなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人が何をしているか知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼ぶ。父から聞いたことをすべてあなたがたに知らせたからである。」（ヨハネ 15：15）

イエス様が弟子たちを「友」とお呼びになったのは、十字架の元から逃げた弟子たちがご復活後の主に出逢い、聖霊を受け、力強く主を証し始めてからではありません。「恐れてしり込みし、身を引こうとしだした」ペトロが殉教者となった後ではありません。

Man for others――私は最初、そのようでありたいと願う、主に向かうお祈りだと思っていました。でもやがて気づかされたのです。Man for others は「あなたがたは世の光である」（マタイ 5：14）と同じであると。いざとなったらどんな愚かさや弱さが炙り出されるかもしれない、決定的に「欠け」ある私たち被造物を主こそが「地の塩」、「世の光」に、ケファ（岩）としてくださる…。

「友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。」（ヨハネ 15：13）

毎日のように恐れ、背き、友と呼ばれるのに値しない私たち被造物を信頼して「友」と呼んでくださる主を崇め、私もまた主（友）のために、自ら命と思うもの（思い、意思、愛）を捨て、み旨に従い、み旨を知りたいと、そして、

「成し遂げられた」（ヨハネ 19：30）

すべてをしてくださった主のうちにあって、私たちもまた、日々、そしてこの世を去る日、「託されたことはやり遂げました」といえるよう、助け合いたいと願います。救いはひとりひとりに与えられますが、信仰はひとりでは守れないことに感謝しつつ。（マリア）

～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～・～

12月8日（火）六甲教会創立記念日 聖母マリアの祝日。今日も12月にしては暖かい。紫色のコスモスたちが聖堂の前で気持ちよさそうに咲いています。

12月13日（日）には、大阪カテドラル聖マリア大聖堂で、「いつくしみの特別聖年」の開年ミサが行われます。松浦悟郎さんが、先日、「平和を実現する人は幸い」というテーマでお話下さった中で、「平和という言葉は名詞ではありません。動詞です。愛も名詞ではなく動詞です。自由

も動詞です。名詞と解釈すれば行動が止まってしまう。」おっしゃられています。

「いつくしみ」そして「特別」というのも、その「名詞的意義」よりも「動詞的意義」に重きが置かれているのは、いうまでもありません。

新成人の皆さん、おめでとうございます。

皆さんは、「特別」に聖年に成人式の祝福を受ける権利を手に入れたのです。

(MAYA 702)

元日雑感

「去年今年貫く棒の如きもの」 虚子

1月1日、元日。元日とは暦の、その年最初の日をいう。暦とはそれがいつかは知らないが終末の時まで続く「時」を、人為的に区切った区切りに他ならない。虚子のよく知られたこの句は、「暦」を見事に言い表している。これまでも、今も、人類は数々の区切り方を工夫した。いま、我々が1月1日、元日と称しているのはその中の一つ、1582年教皇グレゴリオ13世が定めた暦法、グレゴリオ暦の1月1日のことだ。イエズス会士クリストファー・クラヴィウスはグレゴリオ暦制定中心人物の主な一人である。地球上では今もグレゴリオ暦ではない暦を用いている地域がいくつもある。

わたしたちが日々の暮らしに心を奪われ殆ど意識しないが、わたしたちには「聖暦年」がわたしたちの「暦」の筈ではないか。「わたしの国は、この世に属していない」(ヨハネ18:36、フランシスコ会訳)。

12月31日、この教会では長らく19時から感謝の聖体降福式(聖体賛美式)が行われていた。1968年から「年末感謝のミサ」に変わった。元日ミサの時刻はこれまで何回も変わっている。1966年には主日と同じ5回のミサが捧げられていた。その後元日のミサは2回になったり3回になったりしていた。1996年の元日、当時助任司祭であった福地神父が午前0時のミサを始めた。僕の記録には、週報のミサの時間に書かれてあったただけだったが200人程の信徒が与ったと書いてあった。翌年から0時のミサは主任司祭が献げるようになった。元日の遅いミサには酒臭ふんぶんの輩が何人もいて問題になったが追い出すことはできない。ご当人は平然としていたが。

あらたまのとしあけにけりひととせをみむねのままにいつきまつらむ よみひとしらす(終)

(三好)

神の母聖マリア ミサ

12月31日(木) 23時

1月1日(金) 7時30分、11時

六甲教会受付 年末年始休業のお知らせ

2015年12月28日(月)～31日(木)

2016年1月2日(土)、1月11日(月)

新春



教会報2月号の発行は、1月31日(日)です。
原稿は1月17日(日)までに教会受付へご提出ください。FAX 及びメールでも受付いたします。

(広報部)

<http://www.rokko-catholic.jp>

カ	ト	リ	ッ	ク	六	甲	教	会
〒	6	5	7	-	0	0	6	1
神	戸	市	灘	区	赤	松	町	3-1-21
電		話	0	7	8	-	8	5
F	A	X	0	7	8	-	8	5
発	行	責	任	者	ア	ル	フ	レ
編	集	広			報			部